

九州協建コン

多様化踏まえた働き方を

女性技術者交流会



建設コンサルタンツ協会九州支部の女性技術者委員会は29日、福岡市内で「未来の建

設業界を語ろう〜多様性と働きやすさで描く理想像〜」をテーマにした第9回女性技術者交流会を開いた。写真。

会員企業の社員45人が参加し、性別・年齢を超えたさまざまな立場になりきるロールプレイング形式で、働き方に関する悩みとその解決方法について意見を交わした。

冒頭、同支部総務・企画部の木村有花委員長（東京建設コンサルタント）は、性別や年齢層、国籍、働き方など

業界の多様化を踏まえ、「さまざまな背景を持つ仲間と気持ちよく働くにはどうすれば

よいか、活発に意見交換してほしい」と呼び掛けた。

交流会では、勤務地や勤務時間、会社制度が異なる架空の会社6社を設定。ワールドカフェ形式で自由に意見を交わした。

2部構成となり、第1部は年齢・性別や国籍、業務内容などの設定を基に架空の会社の社員として働く上での課題を挙げた。第2部は、メンバーをシャッフルし、第1部で

挙げたDX（デジタルトランスフォーメーション）導入の遅れや個人のスキル格差、早朝出勤や家事・育児との両立などの課題に対する解決策を各会社の管理職として話し合った。

その後、各グループの代表者が結果を発表し、参加者全員で共有した。最も魅力的な会社として、リモートワーク申請フローの簡略化やワーク

シェアリング、勤務時間内で

の勉強時間確保などを提案した1社を選んだ。